

生田緑地・ホトケドジョウ復元池の調査&越冬準備

川崎市生田緑地には、絶滅危惧種・ホトケドジョウを保全するビオトープがあります。内水面試験場では、この季節、「生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会」と連携して、ドジョウの越冬準備を兼ねた調査を行っています。

当日は会と試験場のメンバーをはじめ、県内NPO、水族館、大学・高校、コンサル会社など、たくさんの皆さんが集まってくれました。調査は3つのホトケドジョウ復元池と奥の池に網を入れ、ホトケドジョウをはじめとするすべての生物を採集します（写真1）。大規模復元池には隠れ家として小型の間伐材魚礁が設置されており、その利用状況についても調査を行っています（写真2）。

結果はたいへん良好で、大規模復元池だけで、163尾ものドジョウが採集されました（図1・写真3）。魚礁の利用状況も良く、A水域から採集された126尾のうち、安定して設置されていた魚礁①からは44尾も確認され（図2）、魚礁を利用する個体は大型が多いことも判明しました（図3）。また、近年、急激に減少しているヌカエビ（写真4）やカワニナ等もよく魚礁を利用しています。

調査の後は越冬場を確保するために、土砂を搬出して深場を造成しました。スコップで泥を出し、土嚢に入れて周囲を固める力仕事です（写真5）。ドジョウが安全に冬を越すためには湧き水が入る深場が必要です。厳しい冬を乗り越えたドジョウは、水が温む3月頃になると、産卵を開始します。



写真1 大規模復元池の調査の様子



写真2 小型の間伐材魚礁



写真3 採集されたホトケドジョウ



写真4 近年、生息地が減少しているヌカエビ



写真5 泥を搬出し越冬場を造成

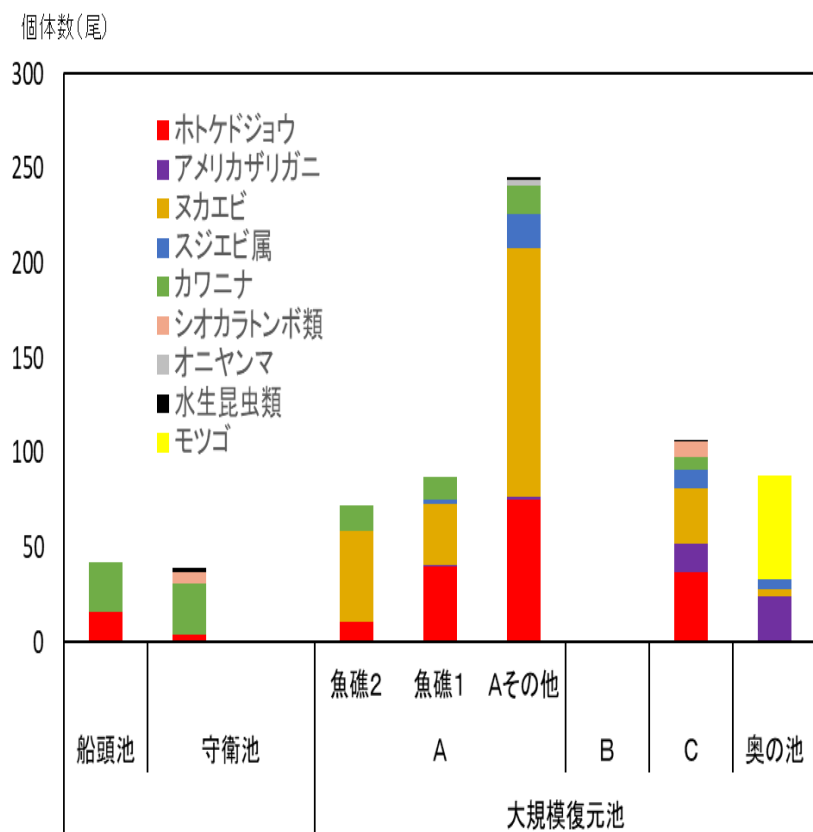


図1 生田緑地ホトケドジョウ・ビオトープ・民家園と大規模復元池および奥の池の水域別調査結果

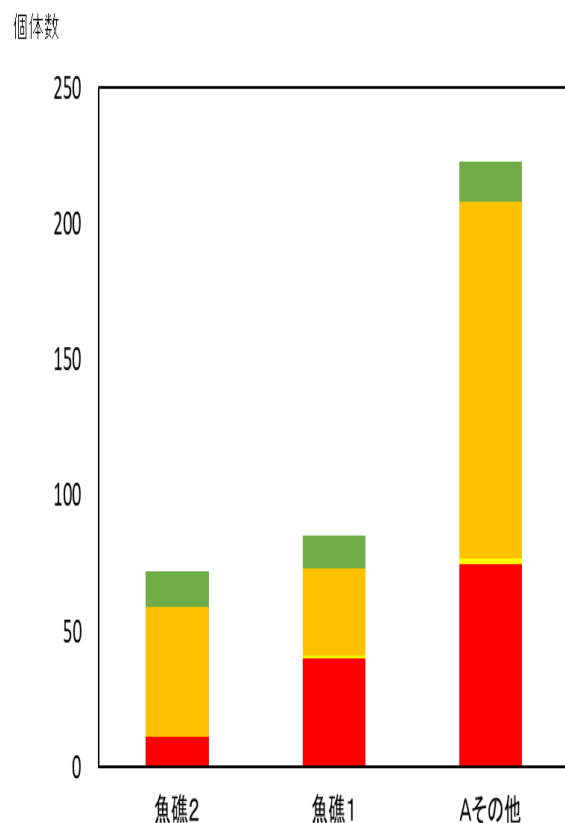


図2 生田緑地大規模復元池の A 水域における魚礁の利用状況

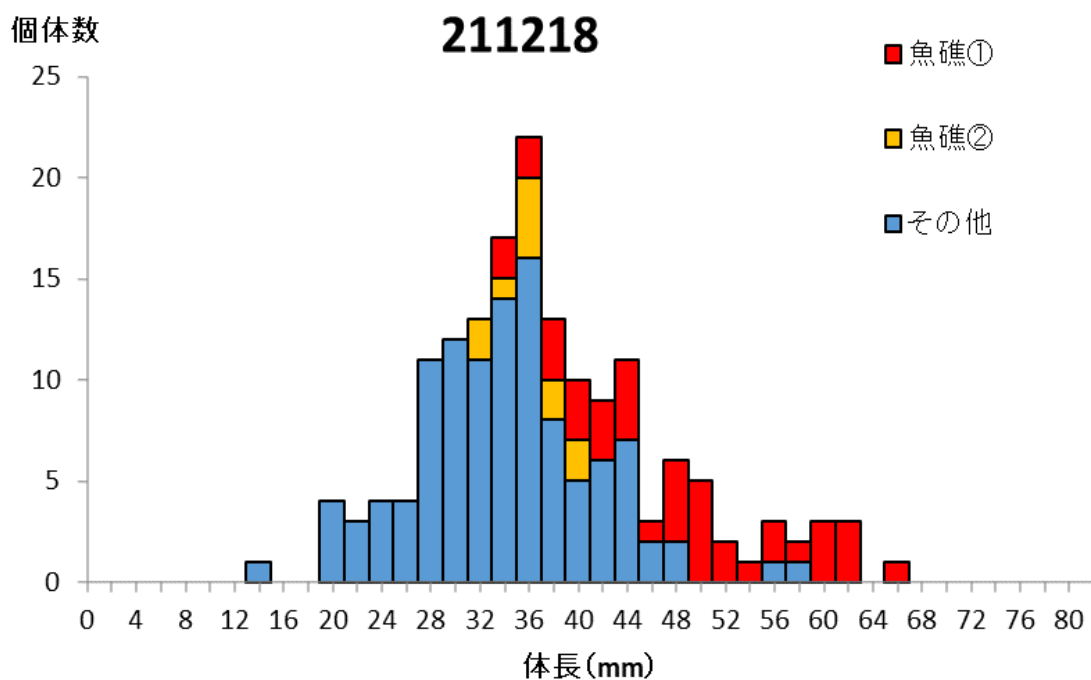


図3 採集されたホトケドジョウの水域別体長頻度分布図